

野田首相に大飯原発反対署名＝鳩山元首相ら民主議員117人

民主党原発事故収束対策プロジェクトチーム（PT）の荒井聡座長（元国家戦略担当相）は5日、関西電力大飯原発3、4号機（福井県おおい町）の再稼働について「一層慎重である」ことを求めるとした同党国会議員の反対署名を野田佳彦首相に提出した。署名者には小沢一郎元代表や鳩山由紀夫元首相も名を連ね、全部で117人に達した。

野田首相は近く関係閣僚による会議を開いた上で、大飯原発の再稼働を決断する方針。しかし、原発の安全対策なども議論してきたPTメンバーを中心に党内から3桁の反対が集まったことで、国民の不安を払拭（ふっしょく）するのは一層難しくなったといえる。

署名したのは衆院議員が81人、参院議員が36人。荒井氏以下20人の議員が5日、首相官邸で斎藤勁官房副長官に手渡した。荒井氏は記者団に対し「最後は党と政府で議論して（再稼働の是非を）決めるべきだ。政府は与党に対して責任があり、与党は国民に対して責任がある」と語った。

署名に添えた要請文には、今夏の電力対策について「節電と融通」で対応するのが「国民の大部分の考え方」と指摘。4月に同PTが示した再稼働のための五つの最低条件が「いまだ一つも実現されていない」とし、大飯原発は深刻な原発事故の際、現場の拠点となる免震事務棟が未整備であるなど、安全面で重大な問題があると強調した。（了）

(C)時事通信社